



セカンドライフを謳歌する旧友との再会

奥田 文子 さん (見能林町)

2012年11月11日、徳島新聞朝刊に、奈良の東大寺で、奈良徳島県人会員などで行く「阿波踊り同好会」が、災害復興を祈願して阿波踊りを奉納したという記事が掲載されていました。「こんな時期に阿波踊りですって！」と驚いたのですが、よく見ると、大仏連(奈良市)の連長、長尾 弘さんとあります。もしかして長尾 弘君。

やっぱりそうでした。彼は、中学時代の同級生です。歌がとも上手で、音楽会で独唱していた姿は今でも忘れられません。そんな彼と、昨年10月に開催された「日本女性会議(男女共同参画)2013あなん」で再会したのです。

長尾さんは、第5分科会(セカンドライフ)のパネリストとして登壇しました。地元にいる同級生も応援に駆けつけました。久しぶりの再会にみんな大喜び。まるで同窓会をしているような気分でした。

第5分科会は、幸せな齢でありたいという意味を込めて、「セカンドライフ」豊かに輝いて、ともに生きる幸齢社会」がテーマでした。長

尾さんは、生き生きとした表情でこ

う語りました。「豪快な男踊りとしなやかな女踊りが魅力の阿波踊り。江戸時代から脈々と受け継がれ、奥深さや醍醐味を感じます。あの二拍子を聞くと踊りたくてうずうずする私は、東大寺にお願いして『大仏連』を結成。踊りの輪は広がり、連員は65人まで増えました。私にとって阿波踊りはセカンドライフそのもの。体力の続く限り踊りたいし、奈良の地で徳島の伝統文化を広げていきたいです」

還暦の同窓会で聞くことができなかった、彼の第二の人生への思いがひしひしと伝わってきました。長尾さんは、就職を機に40数年間、関西で生活されています。阿波踊りが大好きで、現在は連長としてその魅力を伝えていきます。県外にいなながらも、徳島の伝統文化を継承し、奈良県と徳島県の懸け橋役として活躍されていることを、私たちは誇りに思います。全国から参加された皆さんにも、その心意気が十分に伝わったのではないのでしょうか。

阿波踊りは、今回の日本女性会議

のテーマである「男女共同参画」の精神につながるものがあります。男性と女性が協力し合って生まれる

「集団美」と「活力」は、まさに徳島が誇る共同参画の姿。「社会もこうあるべきだ」と、徳島ならではのメッセージを発信することができました。北は北海道、南は沖縄まで、たくさんの人と意見を交わすことができ、「参加してよかった」という声があちらこちらから聞こえてきます。同級生や県外の人たちと有意義な時間を過ごすことができ、人とのつながりが心の豊かさにつながることも実感できた一日となりました。幸齢社会を生き抜く友との出会い、ふれあい。男女共同参画、幸齢社会バンザイです。

長尾さんは、車中で「えつとぶりやなあ」という阿波弁を耳にして、故郷・阿南に帰ってきたんやなという思いを強くしたそうです。「長尾弘君」などと気安く話しかけたのが、第二の人生を謳歌する彼の姿がとてもしんどく感じられ、「私たちが頑張らなければ」と、逆に励まされた気がしています。

